

「専守防衛」と憲法9条

21.5.22 四弁護士会主催webinar

柳澤プレゼン資料

1

国際情勢はなぜ厳しいのか

■脅威論 中国の軍拡・横暴 北朝鮮の核・ミサイル

*だから「抑止」という発想

抑止=戦争への備え・・・それで安心になるか？

*安全保障=戦争の不安からの解放

⇒「備え (=抑止)」だけでは不安はなくなる

■原因を考える

*妥協なき米中・日中対立・・・なぜか？

不安の原因を考える

■米中対立=覇権国の不安と挑戦国の不満

* 専制対民主/経済分離/軍事バランス<台湾有事・後述>

■北朝鮮・・・誇張された脅威

* 米国と戦争して得るものはない

* 制裁・台風・コロナの三重苦⇒体制の切り札としての核
⇒体制保証がカギ<枠組みをどう構築するか>

■尖閣への侵入=主権の対立

* 力で対応すれば、無限の消耗戦へ・・・政治解決以外にない

台湾有事のジレンマ

■台湾・・・米中対立の焦点

* 米中台・平和の前提・・・「一つの中国」⇒崩せば戦争
⇒米中とも譲れない・・・抑止=挑発 < **安全保障のジレンマ** >

■台湾有事は他人事ではない

* 安保法制による日米一体化

米艦防護・重要影響事態⇒米中戦に巻き込まれ

< **同盟のジレンマ** >

* **米中戦争回避が日本の最大課題**

ミサイルからの安全とは何か？

■抑止の発想

* 撃ち落とせないなら、発射前に叩く<敵基地攻撃>

⇒ 相手が反撃してくる…こちらが持ちこたえるか？

* 抑止とは、反撃する意志と能力

⇒ 反撃の意志とは、戦争する意志＝被害に耐える意志

⇒ 抑止とは、相手が納得して攻めてこないこと

＝納得しなければ抑止は破綻する

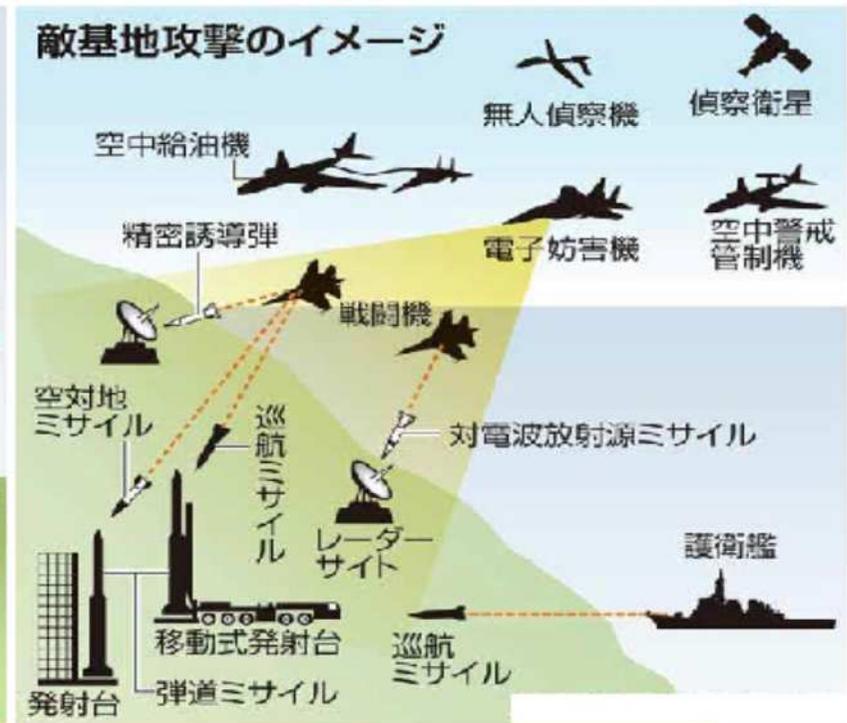
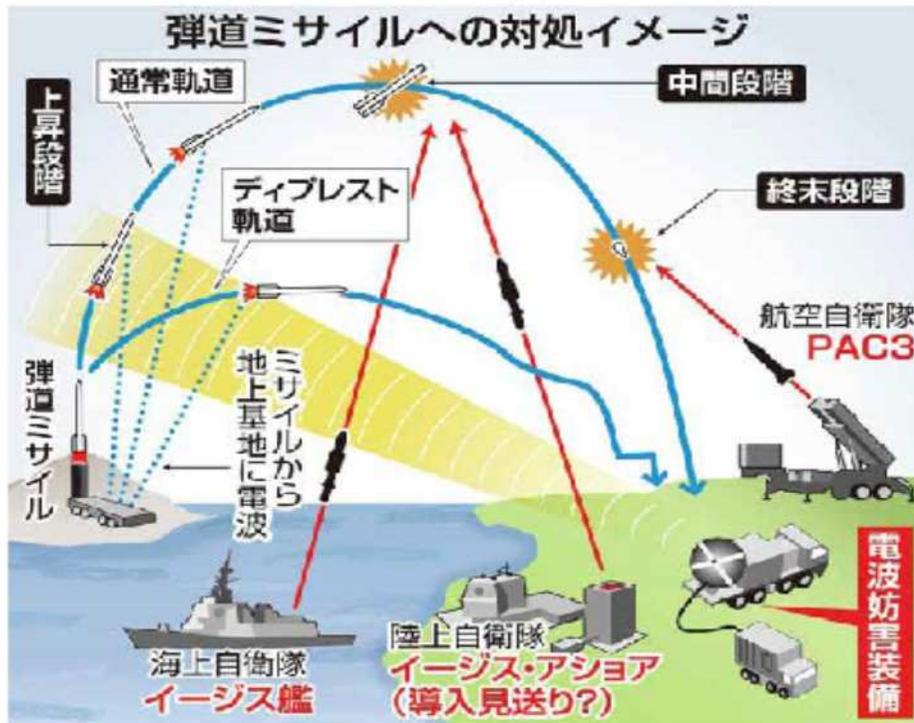
■ミサイルを撃つのは戦争

* 戦争は、動機がある…我慢できない・やられる恐怖

⇒ 戦争の動機をなくせば、ミサイルは来ない

〈資料〉 ミサイル防衛と敵基地攻撃の考え方と必要な装備に関するイメージ図

(産経新聞より)



戦後日本は、どう生きてきたか

■平和憲法と日米安保

* 米軍を受け入れ<平和の代償>日本は争わない協調主義

⇒ **どこでおかしくなったか？**

戦中世代の退場 大国化から自信喪失

米国依存だけ継承

■ **米国依存ではやれない現実**

* 冷戦との違い・・・大国が戦争しない合意がない

* 米国が弱ければ抑止できず、強ければ巻き込まれる

「専守防衛」の意味を見直す

■ 「平和ボケ」は、「左」だけではない

* 戦争に勝つ<ミサイルを耐える>意志があるのか？

* 自衛隊も国民・・・「死ね」という覚悟があるのか？

■ 専守防衛の自衛隊

* 攻めてくれば**抵抗するが、相手を武力で屈服させない**

⇒ 大国に対する戦い方・・・守って疲弊させるが攻め込まない

* 災害派遣・防衛の備えに感謝、それ以上は外交の責任

* **どう使うかは政治の選択 政治を選択するのは主権者**

新たな憲法論の課題

■戦争と憲法

- * 国防＝**国家像の防衛** 国民主権・基本的人権・平和主義
- * 「9条守れ。安倍やめろ」では限界

■新たな護憲の課題

- * 戦争は、国家目的の手段・・・妥協という手段もある
 - 「**地震は防げないが、戦争は防げる**」という確信
 - * 危機を煽り、分断する政治から多様な意見尊重の政治へ
 - * 自分がやられたくないことを人にやってはいけない
- ⇒**憲法の「精神」に新たな生命力を**